

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス スローワーク		
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		令和6年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	令和6年11月29日		令和6年12月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童に対する個別支援	・事前に実態把握やアセスメントを書面や会議の中で実施し、それを生かしながら準備をする。それを元に、子ども一人一人に寄り添ったサポートを行う中で、子どもの声を聴き、サポート中でも内容の変更をしている。さらに、毎回、その結果を個別支援計画に沿った記録として残し、指導員の振り返り、保護者への連絡、次回の指導員への連絡として活用している。	・サポートの準備、サポート自体、サポートの記録が指導員の過度な負担とならずに、その上で、子どもの成長に寄与でき、保護者にも分かりやすく伝えられるようにする。
2	・それぞれの児童にあった学び方を見つける。	・子どもたちは一人一人学び方が違う。しかし、子ども自身はそのことに気づかずについて、従来の学習方法に合わないことで達成感を得られない状況にある。そこで、子どもへの検査、調査、観察、聞き取りなどのアセスメントを元に、子どもに丁寧に寄りながら、その子に合った学び方を見つけ、その子の自信を育てる。	・発達段階に応じて子ども自身の声をサポートに生かしていきたい。
3	・子どもと指導員との人間関係を大切に、その子その子に応じたコミュニケーション力を育てる。	・子ども一人一人が違うように指導員も一人一人が違う。それぞれの個性を尊重しながら、適切な人間関係が構築出来るようにしていく。その上でコミュニケーションを大切にいくことで信頼を構築し、サポートでの学びが子どもの向上の変容を促していくのだと思われる。	・子どもそれぞれの学び方を尊重すると同時に、指導員の個性に応じた指導方法を尊重する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流や研修の機会の確保	・今までも、研修や講演の機会を保護者に紹介してきた。そこで学んだ保護者もあつたり、主体的に会の主催に関わったりする保護者もあつた。しかし、さらに多くの保護者の参画を求めている。	・保護者の思いを聴きながら、保護者が求めている研修や学びの会を実施したい。・また、ズーム等を使って保護者が参加しやすい保護者会を考えたい。
2	・第三者委員会の設置	・施設に対する幅広い評価が必要である。	・可能な限り適切な評価ができる委員会を組織したい。
3	・職員が余裕を持ってサポートに取り組む。	・職員は子どもの関わりを大切に、子どもの成長を願っているあまり、サポート準備や記録に多くの時間が取られ、職員の余裕が少なくなる場合も見ている。楽しく、余裕をもって職員が子どもに関われるようにしたい。	・職員が準備しやすい教材の配置、教材の使い方がわかる研修の実施、指導のノウハウ、分かりやすく適切な量の記録などができるように、現在も取組を続けている。